

第三次琵琶湖博物館中長期基本計画 行動計画（作業中）

事業目標1 琵琶湖の魅力深く掘り下げ、世界に紹介

担当:研究部

重点事業1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					総合研究「過去150年」と基盤B「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」の研究成果がまとめられ、公表されている。あわせて、次期総合研究が立ち上がっている。	東アジアの中野古代湖としての琵琶湖について、新たな価値が追加されている。
進めること（行程）	・総合研究・基盤B研究の推進 ・次期総合研究の検討開始	・総合研究の推進 ・基盤B研究のとりまとめ ・次期総合研究の内容・体制の検討	・総研「過去150年」とりまとめ ・次期総合研究の研究計画彫塑提出	・新総合研究の立ち上げ	・新総合研究の実施	
評価指標1(進捗状況)	各年次報告書提出	基盤B最終報告書提出	総研最終報告書提出			
評価指標2(効果)				達成度	総合研究、基盤B研究の成果の引用件数、学会等での招待講演数	

重点事業1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力の人々に伝える

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					琵琶湖地域に関する研究成果が、ウェブを中心として適切な媒体によって国内外に発信され、目に見える形になっている。	琵琶湖博物館の研究成果発信が定期的に更新され、最新の研究成果がウェブ上で国内外に広く公開されている。
進めること（行程）	・既存の枠組みでのウェブ発信	・J-stageへの研究報告書掲載手続き	・ウェブ掲載コンテンツの検討	・新コンテンツのウェブ掲載	・新コンテンツの改良	
評価指標1(進捗状況)	リサーチマップの掲出と更新	J-stageへの研究報告書掲載	コンテンツ案策定	新コンテンツのウェブ掲載		
評価指標2(効果)				新コンテンツの閲覧件数	新コンテンツの閲覧件数増加	

重点事業1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					遺伝子解析、琵琶湖の微生物分類学、南湖の湖上調査等の研究分野において、当館が琵琶湖地域の研究拠点となっている。	人文・社会科学、自然科学、複合領域など複数の分野において、琵琶湖博物館が琵琶湖研究の拠点となっており、その研究の推進に必要な施設備品や人員体制が整っている。
進めること（行程）	・備品更新計画の更新 ・既存の施設備品による研究推進	・備品調達方法の検討 ・既存の施設備品による研究拠点形成の検討	・備品調達の試行 ・既存の施設備品による研究拠点形成	・必要備品（電子顕微鏡・調査船）の確保 ・既存の施設備品による共同利用の推進	・新規購入備品を使った研究の促進 ・共同利用の推進	
評価指標1(進捗状況)	最新の備品更新計画策定	備品調達方法のリストアップ	備品調達方法の改善 既存の施設備品による研究成果の公開	大型備品の確保		
評価指標2(効果)				既存の施設備品による共同利用の増加	上記分野における館内研究および共同利用の増加	

事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

担当：資料活用係

重点事業2-1 標本・資料の管理体制の強化

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？	・収蔵庫空間の設備の不具合を調査し、原因を把握する	・問題のある設備改修の予算を申請する	・改修工事の着手 ・収蔵庫空間のIPM体制の問題点を把握する	・改修工事の実施	・収蔵庫空間の設備改修による安全な収蔵庫環境を確立する ・IPMの再構築と定期的な管理体制が整備される	
進めること（行程）	・収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検と情報集約	・天井ダクト空間の水漏れ防止 ・収蔵庫(映像と民俗1)空調用冷水バルブ修理 ・蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求	・IPM体制の問題点把握 ・老朽化対策工事の予算化 ・予算に合わせた改修工事の着手	・IPM体制の改善 ・老朽化対策工事	・定期的な管理体制の構築 ・老朽化対策工事	
評価指標1(進捗状況)						
評価指標2(効果)						

重点事業2-2 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？	・web公開データベースの充実に向けた資料の基礎情報の整理される		・資料写真の整理とデータベースへの登録公開のための体制が整備される		・資料写真の整理とデータベースへの登録公開が推進される ・現データベースの充実を図り館内外の利用者のレフェレンス機能を強化する	
進めること（行程）	・緊急雇用による資料撮影と新規登録	・資料写真整理体制の検討	・資料写真整理体制の整備 ・データベース編集作業、データベース画面デザイン、博物館webページとの接続調整	・データベース登録体制の整備 ・データベースの運営にあたっての不具合調整	・データベース登録作業推進	
評価指標1（進捗状況）						
評価指標2（効果）						

重点事業2-3 ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？	・web図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積 ・多面的な音声ガイド情報が公開				・リニューアル後の常設展示と連携したWEB図鑑の公開 ・収蔵庫や展示室にあるイチオシ資料の情報がどこからでも楽しめる	
進めること（行程）	・写場の設備（カメラ、照明器具、撮影台）の更新 ・資料撮影作業	・新展示資料情報の整理	・新展示資料情報の整理	・新展示資料情報の公開検討	・新展示資料情報の公開推進	
評価指標1（進捗状況）						
評価指標2（効果）						

事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

担当：交流係

重点事業3-1 幅広いニーズに応える交流事業の充実

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					多様な主体の参入によるメニューの充実ができるための仕組みが形成される。	多様な主体の参入が定着し、充実した交流メニューの提供ができる。
進めること（行程）	琵琶湖博物館のあるべき交流メニューを明らかにし提供する。	多様な主体の参入を促すための方法の考案や実施に向けての準備を行う。	外部の主体と協働した交流事業（交流メニュー）を実施する。	外部の主体と共に交流事業の仕組みの改良と充実をはかる。	外部の主体と共に交流事業の仕組みの改良と充実をはかる。	
評価指標1（進捗状況）						
評価指標2（効果）			協働した諸主体と実施した成果と課題をまとめたレポートを作る。	協働した諸主体と実施した成果と課題をまとめたレポートを作る。	協働した諸主体と実施した成果と課題をまとめたレポートを作る。	

重点事業3-2 出合いの場の創出

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					さまざまな団体が博物館と共に交流や研究事業を行ない、団体間や団体と利用者の相互の交流が盛んになっている	出合いや学びあいを通じて、新たな研究や事業が発展する気運が醸成される
進めること（行程）	団体向けのはしかけの制度的に関する情報収集	団体向けのはしかけの制度的の発足の準備	団体向けのはしかけの制度的の開始	登録団体と協働でのイベントの開始	登録団体と協働したイベントの充実	
評価指標1（進捗状況）						
評価指標2（効果）				イベントの評価	イベントの評価	

重点事業3-3 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？					博物館を上手く使いこなすことができる教員と深く学ぶことができる教員の増加	研修を受けた教師が自ら主体的に体験的な教材を生み出すことができる。
進めること（行程）	現研修会の見直し 新たな研修会の試験的実施	研修実践の積み上げ	研修実践継続 実践評価検証	研修実践継続 学習限界との関係づけを行う	検証と再計画	
評価指標1（進捗状況）						
評価指標2（効果）	研修会参加者の意見を聞く（アンケート）	研修会参加者の意見を聞く（アンケート）	参加教員から実践報告をもらう（実践例の情報収集）	研修会参加者の意見を聞く（アンケート）	研修会参加者の意見を聞く（アンケート）	

事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

担当：展示係

重点事業4-1 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？			視覚障害者の利用に重点を置きながら誰でも楽しめる「学芸員のこだわり展示紹介」の効果と課題がわかる。		視覚障害者の利用に重点を置きながら誰でも楽しめる「学芸員のこだわり展示紹介」が全展示室にわたり整備される。	バリアフリーを重視しながらも、誰もがユニバーサルに楽しみ学ぶことができる展示室としての評価が定着する。
進めること（行程）	年次計画の作成	システムの試行	コンテンツの追加 ヒアリングによる中間評価	コンテンツの追加・改良	コンテンツの充実	
評価指標1（進捗状況）	具体的な進め方が決まる	試作品の数	コンテンツの数 課題が整理される	コンテンツの数	全展示室の網羅の程度	
評価指標2（効果）			コンテンツへのアクセス数	コンテンツへのアクセス数	コンテンツへのアクセス数	

重点事業4-2 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？			展示室とウェブをつなぐ仕掛けが強化される。	展示室とウェブ・フィールドをつなぐための仕掛けが強化され、これを活用した双方向型のプログラムが始められている。	展示室とウェブ・フィールドをつなぐための仕掛けを活用した双方向型のプログラムが日常的に実施されている。	展示室とウェブ・フィールドを自在に往来し
進めること（行程）	方法論の検討・積算 QRコード設置の試行	QRコード設置・リンク先の整備	展示室内の通信強化	プログラムの計画・試行	プログラムの実行	
評価指標1（進捗状況）	詳細な年次計画の策定	QRコードの設置件数	展示室内の通信システム整備状況	プログラムの計画数	プログラム実施回数	
評価指標2（効果）		QRコードリンク先のアクセス数	QRコードリンク先のアクセス数	QRコードリンク先のアクセス数	QRコードリンク先のアクセス数	

重点事業4-3 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成？		来館者が、C展示および水族展示で、最新の自然・社会・研究状況を反映した情報を得られるようになっている。			来館者が全展示室で、最新の自然・社会・研究状況を反映した情報を得られるようになっている。	
進めること（行程）	C展・水族の更新計画を策定	C展・水族の展示更新 需用費で対応できない更新の予算措置	予算措置が必要な更新を実行	A展・B展の更新計画	A展・B展の展示更新 需用費で対応できない更新の予算措置	
評価指標1（進捗状況）	C展・水族の更新計画が策定できている	展示更新の件数	展示更新の件数	A展・B展の更新計画が策定できている 展示更新の件数	展示更新の件数	
評価指標2（効果）						

事業目標5 より多くの人々が利用する博物館へ

担当:広報営業課

重点事業5-1 ICTを活用したびわ湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成?					来館前からインターネットで琵琶湖や博物館の魅力伝えるコンテンツの提供が進み、その利用が増えている。	国内外の人々がびわ湖や博物館の魅力を知ることができる状態が定着し、来館者・利用者が増え、古代湖としての琵琶湖の魅力が世界中に知られている。
進めること(行程)	webパビリオン(仮)の開設など琵琶湖や博物館の魅力伝えるコンテンツづくり	国内向けコンテンツの充実	国内向けコンテンツの充実	国外向けコンテンツの充実	国外向けコンテンツの充実	
評価指標1(進捗状況)	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	
評価指標2(効果)	コンテンツ利用者数	コンテンツ利用者数	コンテンツ利用者数	コンテンツ利用者数	コンテンツ利用者数	

重点事業5-2 SNS等を利用した双方向の広報

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成?					各種調査・評価が継続的に実施され、事業に反映されている。	各種調査・分析・評価が定着し、事業に反映され、改善されている。<総合的な評価・事業反映システムの構築>
進めること(行程)	アンケート調査実施、評価・分析方法の検討	アンケート調査・評価・分析の実施による情報	アンケート調査・評価・分析の実施による情報	アンケート調査・評価・分析の実施による情報	アンケート調査・評価・分析の実施による情報	
評価指標1(進捗状況)	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	
評価指標2(効果)						

事業目標1~5共通 博物館のサービス提供の基盤としてのインターネット環境の整備

担当:企画調整課

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030年の状態
どんな状態を達成?		ホームページの刷新	ホームページの博物館化が進む	ホームページの博物館化が進む	ホームページの再構築・コンテンツ提供の枠組みができており、各課・係からの提供が進んでいる。 来観案内以外の利用が増加傾向を示す。	来館や行事に参加などの「リアル」の利用と並行して、インターネット等を介したオンラインによる博物館利用が定着する。
進めること(行程)	ホームページのページ構成やインターフェースの再構築案の作成。見積を得て次年度予算に反映。試行的コンテンツ(館内案内)作成 視覚障害者向け改良着手	ホームページの再構築 ①ページ構成の変更(委託) ②既存情報発信コンテンツの整理(おうちミュージアム再構築) 視覚障害者向け改良	情報発信用ページの整備 コンテンツ作成計画 (各課・係と共同作業)	情報発信/ページ最適化	情報発信/ページ最適化	
評価指標1(進捗状況)	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	
評価指標2(効果)				各ページ利用者数	各ページ利用者数/引用回数	
評価指標3(その他)		視覚障害者による利用評価				

事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

重点事業6-1 老朽化した施設の改修と災害への備え

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030
どんな状態を達成?					建物・施設の改修計画に基づいた改修が進んでいる。なかでも優先順位の高い標本・資料の保管環境の整備が先行して進んでいる。 危機管理マニュアルが整備され職員に浸透している。	建物・設備の改修が計画的に進んでおり、標本・資料類の保管環境が安定している。設備改修とマニュアル・体制の整備により災害に強い運営体制が整っている。
進めること(行程)	改修更新個所の洗い出しと分類 危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理	建物・施設改修更新計画完成 危機管理管理マニュアル統合版完成	標本・資料の保管環境整備開始 危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 危機管理マニュアルに基づく訓練・研修	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 危機管理マニュアル改訂作業開始	
評価指標1(進捗状況)	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	工程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	

評価指標 2 (効果)						
-------------	--	--	--	--	--	--

重点事業6-2 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2030
どんな状態を達成？					企業・団体や個人による寄附等が増え、博物館に対する支援が進んでいる。	企業・団体や個人による寄附等が定着し、安定した活動基盤が確保されている。<新寄附制度の定着>
進めること（行程）	リニューアル後の新しい企業連携制度の定着のためのPR	多様な収入源の確保に関する調査分析	多様な収入源の確保に関する調査分析に基づく新寄附制度の導入検討	多様な収入源の確保に関する調査分析に基づく新寄附制度の導入・実施	新寄附制度の評価・分析・改善	
評価指標 1 (進捗状況)	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	行程に対する進捗率	
評価指標 2 (効果)						

琵琶湖博物館第三次中長期基本計画 出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ

	主たる担当		5年後の状態（2025）	10年後の状態（2030年）
事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介	研究部	重点事業1-1 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進	総合研究「過去150年」と基盤B「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」の研究成果がまとめられ、公表されている。あわせて、次期総合研究が立ち上がっている。	東アジアの中野古代湖としての琵琶湖について、新たな価値が追加されている。
		重点事業1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える	琵琶湖地域に関する研究成果が、ウェブを中心として適切な媒体によって国内外に発信され、目に見える形になっている。	琵琶湖博物館の研究成果発信が定期的に更新され、最新の研究成果がウェブ上で国内外に広く公開されている。
		重点事業1-3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化	遺伝子解析、琵琶湖の微生物分類学、南湖の湖上調査等の研究分野において、当館が琵琶湖地域の研究拠点となっている。	人文・社会科学、自然科学、複合領域など複数の分野において、琵琶湖博物館が琵琶湖研究の拠点となっており、その研究の推進に必要な施設備品や人員体制が整っている。
事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備	資料活用係	重点事業2-1 標本・資料の管理体制の強化	・収蔵庫空間の設備改修による安全な収蔵庫環境を確立する ・IPMの再構築と定期的な管理体制が整備される	
		重点事業2-2 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進	・資料写真の整理とデータベースへの登録公開が推進される ・現データベースの充実を図り館内外の利用者のレフェレンス機能を強化する	
		重点事業2-3 ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出	・リニューアル後の常設展示と連携したWEB図鑑の公開 ・収蔵庫や展示室にあるイチオン資料の情報がどこからでも楽しめる	
事業目標3 みんなで学びあう博物館へ	交流係	重点事業3-1 幅広いニーズに応える交流事業の充実	多様な主体の参入によるメニューの充実ができるための仕組みが形成される。	多様な主体の参入が定着し、充実した交流メニューの提供ができる。
		重点事業3-2 出合いの場の創出	さまざまな団体が博物館と共に交流や研究事業を行ない、団体間や団体と利用者の相互の交流が盛んになっている	出合いや学びあいを通じて、新たな研究や事業が発展する気運が醸成される
		重点事業3-3 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援	博物館を上手く使いこなすことができる教員と深く学ぶことができる教員の増加	研修を受けた教師が自ら主体的に体験的な教材を生み出すことができる。
事業目標4 もっと使いやすい博物館へ	展示係	重点事業4-1 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長	視覚障害者の利用に重点を置きながら誰でも楽しめる「学芸員のこだわり展示紹介」が全展示室にわたり整備される。	バリアフリーを重視しながらも、誰もがユニバーサルに楽しみ学ぶことができる展示室としての評価が定着する。
		重点事業4-2 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長	展示室とウェブ・フィールドをつなぐための仕掛けを活用した双方向型のプログラムが日常的に実施されている。	展示室とウェブ・フィールドを自在に往来し楽しみ学べる博物館としての評価が定着する。
		重点事業4-3 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長	来館者が全展示室で、最新の自然・社会・研究状況を反映した情報を得られるようになっている。	
事業目標5 より多くの人が利用する博物館へ	広報営業課	重点事業5-1 ICTを活用したびわ湖の魅力とその入口としての博物館の紹介	来館前からインターネットで琵琶湖や博物館の魅力を伝えるコンテンツの提供が進み、その利用が増えている。	国内外の人々がびわ湖や博物館の魅力を知ることができる状態が定着し、来館者・利用者が増え、古代湖としての琵琶湖の魅力が世界中に知られている。
		重点事業5-2 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映	各種調査・評価が継続的に実施され、事業に反映されている。	各種調査・分析・評価が定着し、事業に反映され、改善されている。 <総合的な評価・事業反映システムの構築>
	総務課	重点事業5-3 来館しやすい環境の整備		
事業目標1～5共通 博物館のサービス提供の基盤としてのインターネット環境の整備	企画調整課	重点事業5-1 ?	ホームページの再構築・コンテンツ提供の枠組みができており、各課・係からの提供が進んでいる。 来観案内以外の利用が増加傾向を示す。	来館や行事に参加などの「リアル」の利用と並行して、インターネット等を介したオンラインによる博物館利用が定着する。
事業目標6 博物館の活動を安定して継続する	総務部 事業部 研究部	重点事業6-1 老朽化した施設の改修と災害への備え		
		重点事業6-2 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり	企業・団体や個人による寄附等が増え、博物館に対する支援が進んでいる。	企業・団体や個人による寄附等が定着し、安定した活動基盤が確保されている。